

# 白子川 源流通信

2013年4月 第38号

「白子川源流・水辺の会」会報紙

- 濁水特集
- 『ねりまちコレカラ集会』に参加して
- ◆ シリーズ 2「白子川 Q&A」
- 定例活動報告

## 白子川な風景 2

“遊び場”は消えても



源流が5年ぶりに干上がり、川に生き物はいないはずなのに・・・、  
いるいる!! 子どもたちだ。川底を走りまわっては護岸を登り、下水  
吐けに向かってヤッホーと叫んだりして、「濁水によって出来た遊  
び場」で数週間楽しんでいたが、4月1日から降り続いた雨によ  
って満水となり、子どもたちの歓声は消えた。  
大泉の小さな川の様子をよく見ているのは実は、子どもたちなの  
かもしれない。 (写真・文 菅沢 博)

# 定例活動報告

12月、1月、2月、3月



冬も川岸の壁を這いのぼるピンクのじゅうたん、ポリゴナム。近づいてよく見ると、小さなボール状の花とV字模様の葉っぱがかわいい。

測定地点	日 天気 気温 項目	12/23	1/27	2/24	3/24
		°C	9	11	8
源流部	水温℃	8.5	13.8	-	-
	水深 <sub>cm</sub>	4	7	-	-
	PH	6.5	6.2	-	-
井頭橋	水温℃	6.3	6.8	4.7	-
	水深 <sub>cm</sub>	8	11	1.5	-
	PH	6.7	6.0	6.4	-

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

\*PHは水素イオン指数で、酸性かアルカリ性かがわかる。PH7が中性で、これより大きいとアルカリ性、小さいと酸性。白子川の水は今期、弱酸性を示している。

## 白子川源流域の様子

### 冬から春の窮状

雨の少ない冬場は水涸れの時期だ。しかし、例年3月になるとめぐみの雨で水量は回復する。しかし、今年は春の雨が4月にずれ込んでしまった。だから、源流部は例年になくカラカラに干上ってしまった。

子どもたちは、源流広場で駆け回り、やがて井頭橋の下まで遊びの障地を広げてしまう。ふだん上から見下ろすしかない川も、そこに立てば、冒険心すぐるワクワクな場所。わずかに残った水たまりに、難をのがれたザリガニを発見したり、合流式の大きな穴をのぞいたり…。自然現象の湧水も、水辺の生きものたちには大変な試練だが、子どもたちにこの川の大事な一面を見てもらうにはいい機会だ。そして、訪れる人にこの川が湧水でできてることを知らせてもらうには、この状態がまたないチャンスでもある。

「へー、ここは水がないのね、下の方は流れてたのに…」ほんの少しだけ下流の方から散歩に来たというご夫婦の不思議な顔。——川はこの時とばかり訴える。「ちがいます！干上がった私の川底には水がちょろちょろ湧いています。水を取り戻す知恵をめぐらしてください。滔滔と湧き出す大泉の名にふさわしい水を私に返してほしい。」「湧水」と聞いてじっと川を眺める二人。水のない川は、この窮状を切々と自ら訴えているように見える。

湧水の中、生きものたちはどうしているのだろうか？干上がった川底の下、息をひそめて、わずかずつ湧き出す水にいのちをつないでいるのだ。水が戻ると、待ちましたとばかり一斉に復活するから、いのちの営みは不思議でたまらない。(東谷貞子)

## 活動記録

12/26 源流通信第37号発行

1/26 運営会議

27 定例活動(TOTO協協力)

2/4 白子川流域等高線立体地図入荷  
(練馬まちづくりセンターより)

10 「第8回川でつながる発表会」  
出展および運営に協力

23 運営会議

2/24 定例活動(TOTO協協力)

3/23 運営会議

24 定例活動(TOTO協協力)

28 角川マガジンス

『大泉学園ウォーカー』に  
白子川源流・水辺の会掲載

4/27 運営会議

28 定例活動(TOTO協協力)

昨日はありがとうございました。  
親子でとても良い体験が  
できました。帰宅後、娘2人で  
楽しそうにアップルパイ(道沿い  
のお菓子屋さん名物)をほおば  
っていました。

**TOTO(株)**  
**グループのみなさま**  
**これまでの活動の感想**

梅雨の晴れ間に初参加の方も多く、  
バリバリと草刈りをされとてもきれい  
になりました。清掃活動に混じって、  
子供たちは楽しそうに小魚やザリガ  
ニ取りをし、お母さんたちもニコニコ  
とその姿を見守っておられました。

都心とは思えないすばらしい環境  
の中、安心して水辺で遊ぶことが  
できる場所になるといいですね。

スコップ組は地元の中学生在が  
スゴイやる気で、ガンガン意見  
を出してくれたので、素直に  
感心しました。地元の子がこれ  
だけ率先して参加してくれると、  
すごく応援したくなりますね。  
また次回もよろしく願います。

子供は、川に初めて入っ  
たと喜んでいました。また  
よろしく願います。



☆ ありがとうございました。

~~~~~東北支援先の「みやぎジョネット」からのメッセージです~~~~~

白子川源流・水辺の会 代表 菅沢博 様

70,000円のご寄付を、確かに受取りました。私どもにとりまして貴重です。  
また、忘れずにいて下さいましたことも嬉しかったです。ありがとうございました。

文面に書かれた「か細い湧き水」の川を愛する、という言葉に真っ先に目がいきました。  
実は、ジョネットが支援し起業に漕ぎ着けた女性たちが何人かいます。漕ぎ着けたとい  
より、登記したばかりの右往左往状態ですが、津波で家をなくし、重篤な病人をかかえて、  
寝る暇もなく始めた女性たちです。

彼女たちの努力が大地に染出て、町の人みなどで喜べる復興に導いてくれると思っています。  
そうした女性たちを応援して下さいのメッセージと解釈致しました。

どうぞこれからも、私どものそばにいて頂けますように、お願い申し上げます。

みやぎジョネット事務局長 草野祐子

※ みやぎジョネット(みやぎ女性復興支援ネットワーク)は、被災地女性と全国支援者の思いを結ぶ  
ことを目的に発足したNPO団体で、会員の多くは被災女性です。

# 川の水がない!!

白子川源流、冬の風景



何かいる! 棒切れでさぐる



「ヤッホー」下水吐けトンネルはよく響く



源流によく来るコサギ



魚を助けるためにバケツリレー

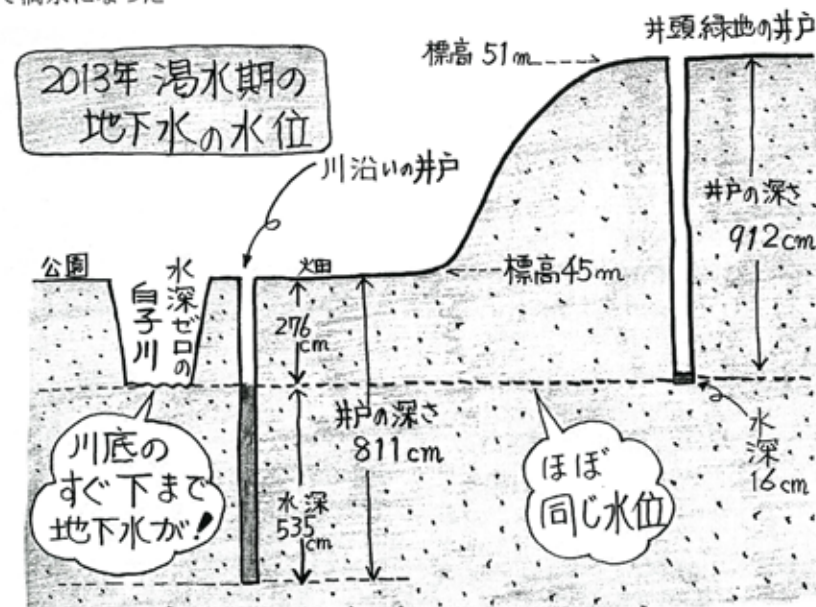
3/27  
岡谷内くん(小5)  
井口くん(中2)  
ほろこく

この冬は5年ぶりの<sup>かつすい</sup> 渇水。ホトケドジョウは大丈夫だろうか?



4月1日からの雨で満水になった (4/3撮影)

4月2日、「渇水期の水位」を把握するために、源流西側の調査井戸と、近くの井頭緑地の調査井戸の水位を測定した。結果、①涸れた川底の直下まで地下水は来ていること、②井頭緑地と源流は同じ水脈でつながっているらしいことがわかった。(下図参照)



## 【ホトケドジョウと私たちの生活】

白子川源流には貴重な生き物がたくさんいます。中でも絶滅危惧種のホトケドジョウは、湧き水でしか生きられない生物ですから、みんなで湧き水を守っていかねばなりません。「便利さ」や「開発」などの名のもとに大地を次々とコンクリートで覆いたくないし、湧き水が涸れてしまった三宝寺池や善福寺池や井の頭池の二の舞になりたくないと思います。みなさまはどのようにお考えでしょうか?

## 【湧き水を守るために私たちにできることは?】

すぐできることは節水ですが、大切なことは「我が家に降った雨は地元にしみ込ませるぞ!」という「決意」と「実行」。その実行を応援する制度が練馬区の【雨水浸透施設助成制度】です。自己負担ナシで自宅に【雨水浸透マス】が設置できます。予算上、設置個数に制限がありますから早めの申し込みがポイント。新築でない既設住宅でも大丈夫です。野川流域では、小金井市を中心に100,000基以上の雨水浸透マスが設置され、野川を「助けて」います。(菅沢 博)

▼雨水浸透施設助成制度の問合せは ⇒ 練馬区役所 土木部計画課総合治水係  
直通電話 03-5984-2074

調査地: 井頭橋の下流

| ①       | 数       | 推定     | 最大      |
|---------|---------|--------|---------|
| アブラハヤ   | 35 ひき弱  | 60 ひき  | 16 cmほど |
| フナ      | 30 ひき強  | 45 ひき  | 12 cmほど |
| カワムツ(?) | 5~6 ひき  | 15 ひき  | 10 cmほど |
| マルタ(?)  | 2~3 ひき  | 5~6 ひき | 8 cmほど  |
| アメリカリガニ | 極めて少ない  | そして小さい |         |
| エビ      | 50 ひきほど | 200~   |         |

- だろの量 少ない
- 水の量も雨が降らないわりに多く、とても良い状態
- シマドジョウ放流可能
- ホトケはだろが少ないため ×
- 水草はない

〈まちづくり白熱教室〉での議論は、水辺の会の今後の活動の在り方に多くの示唆を与えてくれるとともに、“自分にとってのまちづくり”について立ち止まって考えること、そして展望することの大切さを再認識する貴重な機会となりましたので、集会の様様をご報告したいと思います。

主催：練馬まちづくりセンター  
 講師：小泉秀樹(都市計画・都市工学専攻、  
 東京大学大学院助教授)  
 日時：3月20日(水・祝)  
 会場：武蔵大学

ワークショップコーナーに寄せられた情報や意見を基に、〈まちづくり白熱教室〉と題した対話集会を開催。  
 テーマ【みんなで「ねりまのまちを HAPPY にするまちづくりテーマ」を見つけよう】

午前中〈平成24年度まちづくり活動助成  
 最終報告会〉

午後 〈まちづくり縁日〉

“ワークショップコーナー”

- ①まちづくり年表をつくろう
  - ②まちづくりマップをつくろう
  - ③まちづくりマインドマップをつくろう
- “情報提供コーナー”

…テーマ選定の背景について、小泉講師の説明…

現在、区が「都市計画マスタープラン」の見直し(改定作業)を進めているという背景があり、まちづくり・地域づくりを次のステージにどうやってつなげていくのか、わがまちのコレカラ10年をみんなで考えたい。

白熱教室では、参加者が『わがまちネリマ』への関心事項を書き込んだ③まちづくりマインドマップに添って、テーマ毎にディスカッションが行なわれました(一部紹介)。

### ライフスタイルの変化

練馬の中でずっと働き暮らしたいと考える若者が参加者の中に多く、学業を終えて新しいビジネス(ベジタブルカフェ開設)に実際に飛び込んだ若者もあり、やりたいことと暮らしたいフィールドがイコールなので結果としてアフター5ではなくまちづくりと仕事が重なってくる。

### 都市の個性

練馬らしさ、地域(江古田)カラーの魅力の創出は、商店街と大学を拠点に連携した結果生まれた、みつばち(江古田銀座)&映画フェスティバル&アートによるもので、コミュニティビジネス化には地域ベースの連携が大切である。

### その他

活動団体の大半が活動拠点を持ってない現状にありながら空家空店舗の活用の推進が図られない状況、徒歩圏内の生活圏の開発が求められている一方買い物難民が生じている現状、外国人向けの防災マニュアルは作成されたものの地域情報はメディアの活用はまだまだまだロコミ頼りにある etc.

…討議を終えて、小泉講師のまとめ…

1. プロデューサー的なエンカレッジする仕組みづくりの重要性と必要性/2. コミュニティーの働きを基盤とした発展の重要性と必要性/3. 活動拠点の重要性と必要性——活動団体の一人ひとりの背中を押す支援を引き続き行なっていきたい。



『ねりまちコレカラ集会』に参加して、「まちづくり」は、一人ひとりの暮らしそのものであり、福祉、環境保全、都市開発(整備)、景観保全…と多岐にわたるこれらへの一人ひとりが寄せる思いをどのようにまちづくりに繋げていくのか、その仕組みづくりの難しさを改めて痛感し、併せて、水辺の会の活動を影となり日向となり支えてくれる“まちセン”の存在の大きさを再認識しました。全国的にも貴重な組織体である“まちセン”を更に発展させていくためにも、白子川源流・水辺の会の活動を通して“おらが川・白子川を自慢し、生まれて育って住んでよかったと思える大泉のまちづくり”にしっかり取り組んでいきたいと心を新たにしたい一日でした。

## なぜ「白子川」という 名前なの？

**Q** 大泉が源流の川なのになぜ、「白子」川って名前がついてるんですか？「白子」ってというのは、お隣りの和光市の地名でしょ。

**A** その通りです。「白子」は「新羅（しらぎ）」から変化した名前です。奈良時代に朝鮮の新羅から74名の男女がここに移住してきたという記録が残って、「武蔵国新羅郡」という名前がついたとのこと。江戸時代には、江戸から熊谷への川越街道の、江戸―上板橋―練馬―白子というように、3番目の宿場として記録されています。その宿で働く人を橋戸・小樽（こぐれ）という、今の白子地区からも出していたようで、今は埼玉県と東京都に分かれています。以前の大泉と白子はつながりが強かったのです。

**Q** 大泉と白子のつながりはわかりましたが、じゃあ、なぜ「白子」川になったんですか？

**A** そうですね。かつて土支田村では「土支田川」、小樽・橋戸村では「小井戸川」、そして源流付近では「大川」と呼んでいたようです。

ところで、江戸時代に橋戸・小樽村が新座郡に属し、明治時代前半には埼玉県に入っていたということは知っていますか？それが、「東京府」に編入されたのは1891（明治24）年、その時「大泉村」となりました。どうも、埼玉県時代の村の議会で川の名前を統一する時に、白子の人たちが大泉の人たちよりタッチの差で早く申し出て「白子川」という名前になってし

まったらしいのです。

川の名前を考えると、そもそもあの隅田川も「大川」と呼ばれていたし、隣の石神井川だって「大川」とか「関川」と呼ばれていたようです。川の近くに住んでいる人にとってはせいぜい「大川」「小川」くらいの区別で済んだものが、行政の単位が大きくなるのに伴って、今のように「〇〇川」というような名前をつけなければならなくなったわけです。

（東谷 篤）



鈴木一彦さんを偲びて  
池野頌男

春寒や馴染の会友の百日祭(忌)  
をじふとも

親父ふたり少年になつて

魚追ふ晩秋の里川  
あき

北郷科のある沢にて、カズさんと

山の「喫茶」カップ片手に  
カフェー

山親父

# ホシゴイ

ホシゴイとは、ゴイサギの幼鳥で、生まれてから3年間はホシゴイと言い、羽の色が褐色で黄褐色の斑点が入る。大きさは60cmほどでカラス大。夜行性で、夕方水辺に来て、じっとして、小魚やザリガニなどが近づくと首を伸ばして取って食べる。白子川の井頭橋から火の橋にかけて時々見かける。大人になると、背羽が青く腹回りが白い羽毛で覆われる。昼は、森などの繁みで寝て過ごす。



2009年12月16時、井頭橋の下

～～会員のみなさんへ～～

## 定期総会のお知らせ

6月16日(日)午後1時～  
東大泉地域集会所

この1年を振り返り、新たにスタートする大切な場です。会員のみなさま、ぜひご出席ください。

【会報に詳細を同封しました】

～～地域のみなさんへ～～

【身近な川の全国一斉調査】を  
白子川でも実施。参加者募集 !!

- 6月2日(日) 9時～12時 雨天決行
- 大泉井頭公園集合、動きやすい服装
- 川に入って水質・生物・植物等調査
- 申し込み先・菅沢 03-3923-8430

- 5/13(月)大泉南小学校先生たちだけの川体験
- 24(金)大泉南小学校4年「白子川学習」授業
- 25(土)運営会議
- 26(日)定例活動
- 6/ 2(日)全国一斉調査
- 11(火)大泉南小学校4年「川と森の体験」
- 16(日)定期総会

- 6/23(日)定例活動
- 7/27(土)運営会議
- 28(日)定例活動
- 8/24(土)祭り実行委員会
- 25(日)定例活動

※6月はイベントが多いので、6/22(土)の運営会議は休みます。

これからの活動予定

## 編集後記

▼ミラポ一橋の下をセーヌ川が流れ、われらの恋が流れる。ふと思い出した詩集の一節。何を血迷ったか「井頭橋の下を白子川が流れ、われらの…」と頭で口ずさんで、はたと考えた。まさか次に鯉はナシだが、夢、日々、汗、愛、時…と考えてきて、ナ～んだ水じゃないかと思ひ当たる。われらの大事な湧水が流れるんだよ。(さ)

▼干上がった川にも生きものはどこかにいるはず、と、3月の川活動では、小・中学生が中心のわかチームで、コイの泳ぐエリアから大小の容器で水をすくっては、わずかに残る水たまりまで、井頭橋の下を往復した。軽くち言い合うお兄ちゃんたちに混じって、ちっちゃん子は黙々と水運んだ。足もとを見る真剣な顔にドキっとした。(け)

発行 白子川源流・水辺の会  
 編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子  
 題字 宮本沙海  
 発行部数 1,250部  
 代表 菅沢 博 03-3923-8430  
 練馬区南大泉 1-10-5  
 suga-lohas@jcom.home.ne.jp  
[http://www.geocities.jp/sirako\\_river/](http://www.geocities.jp/sirako_river/)  
 ※この会報は年3回発行しています

当会は TOTO 水環境基金の助成を受けています